

戦後レジームからの脱却 3

加戸守行元県知事の証言

まだこの話か！と言うなかれ。この県知事の先見性、説得力、実行力、人格、いずれも「こういう人が政治家である」ことを証明しているが、この人の国会での証言をあまりにもメディアが軽視あるいは無視しているので、ご本人がまとめた文章を読むと、経過がよくわかる。短く言えば、「獣医師学会の既得権益を守るための悪あがき、文科省の一方的な岩盤規制」の非人間的な面が如実に現れていて、他山の石とするべきだろうと思う。WiLL10月号に全文が載っている。要するに安倍晋三総理の出番はなかったのに、ある汚い、捏造で勇名を馳せている新聞屋のでっち上げだったことがわかっている。これを契機に、北朝鮮からのミサイル攻撃が激しくなっている時期に、民進党の連中は、安倍総理の首がとれるかもしれないとシャカリキになっていた。彼らにとっては、国家が大切なのか、安倍の首をとるのが大事なのか。そういうことが理解できないから政権をとらせたら支離滅裂になって混乱の極みをつくってしまったのである。まだ国難が理解できないらしい。

ところで、前回、元事務次官の前川のことを叩けば何かできそうな、と書いたが、2011年3月11日の東日本大震災当日、石巻の大川小学校で、学童74名、教職員10名、運転手1名が津波にのみこまれて亡くなった。なぜかと言えば、みんな揃って新北上川の近くの三角地帯に避難するつもりでいたところを津波がやってきた、というもので、そんな長い距離を歩くまでにすぐそばにある裏山に上った方が逃げることができる可能性が高い、というのはある子供の意見である。そして普通の感覚である。つまり、学校側の明らかな判断ミスであった。防災無線でも、川や海のそばに行くな、と繰り返している。「津波てんでんこ」とは、津波が来たら、**自分の判断で**、できるだけ近い高台に上る、というのが20年以上前から、山下文男氏らが、あちこちで講演していて、これが当時の共通の認識だった。子供たちの遺族は、第三者検証委員会の設立を要望した。このとき、尾木ママに相談し、数々の助言をいただいたと著者は言う。いわく、委員会の半分は遺族の推薦する人物を入れるなど。前川は「わかりました。皆さんの意向を組み入れた検証委員会を立ち上げたいと思います。」と賛同した。

できた検証委員会のメンバーをみたとき、遺族は呆気にとられた。石巻市、宮城県教育委員会、前川が主導した文科省の検証委員会の、県や市、あるいは東北大学関連の者をいれないことなどを要求していたのに、防災コンサルタント会社社長（これは津波工学専門の東北大学元教授の娘）、当の教授、東北福祉大学教授などなど、あまりにも遺族の思いを軽視した対応の数々。何よりもこの事件に関わる人たちが、次々と悪魔に魂を売ってしまったように豹変していったこと。それぞれが遺族の思いを逆撫でするように爪痕を遺す。前川は「一人以外は賛成した」ととってつけたような嘘を平気で言う。皆呆れるばかりである。「津波で発生した事故だから、専門家が必要で、これ以上の人選はない」とまで言う。

2 か月後、生き残った子供たちへの聞き取り調査で記録を遺す録音も録画もとらない。大学ノートにメモをとるのみで、教育委員会の不利になることをすべて削ぎ落して公文書として残し、メモは全部廃棄されていた。「山に逃げようという児童がいた」と証言した子供がいたのに、その存在を認めない。肝腎の所になると、委員は口の前に示指をあてて、「言うなよ」と顔を見合わせる。……市長の亀山紘は、(当初は謝罪していたのが、)「謝罪するのはおかしい」と言った。

まさに、面従腹背の典型のようで、人間不信になりそうな具合だったらしい。検証委員会は6時間に及び、計10回。不毛な議論の塊だったという。たとえば時計。壁に時計が架けてあるが、その時間が一致しているから、学校の備品なのだが、「流れてきて壁にひっかかった可能性がある。」教授になると、天文学的な確率でも否定はしないらしい。……そら遺族は怒るやろね。で、検証委員会の結論は何か?……「避難が遅れたから」……アホ!! その理由を考えるための検証委員会やないか。……問題の本質まで変えてしまう。

教師の一人がひとりで避難して「津波に呑み込まれて大変でした」と涙を流して報告したが、証人が何人もいて、彼は少しも濡れていなかった。つまり、津波でんこを悪用し、子供をほったらかして自分だけ逃げた、敵前逃亡である。万死に値する卑劣さだが、村井県知事は公務災害を認め、一生を安穩に過ごすだけの待遇をしている。この教師は、いまだ学校に来ない。PTSD だという。PTSD は遺族のことだろうが。村井県知事は、当初「こんな近くに山があったのに……」動画にも残っているのに、学校側の誘導にまちがいはない、と前言を翻す。

根っこには、「相手は素人だから丸め込める」くらいに考えていたとしか思えない。やむなく裁判になると、当然遺族の有利さが認められる。二審以降になると、(何せ今の裁判官のレベルが低いかからどうなるものやわからないが) 裁判官が代わるからひっくり返るかもしれないが。

救いは国会議員の中で、たとえば和田政宗衆議院議員が積極的に動いて、国会でも文科省を追求している。念のため、彼は、選挙区が違う。それでも亡くなった人や遺族のために努力を惜しまない。

この「裏切りの文部官僚・前川喜平」を書いた佐藤和隆氏は、三男を亡くされた。誌面で前川に言う、「あなたは、『安倍首相が行政を歪めた』」とっています。加計学園問題、別に誰の命も失われていないですよ。一方で、あなたは74人の命を蔑ろにし、検証委員会にフタをして真相を隠蔽したではありませんか。教育行政のトップであるあなたが子供たちの命を軽視しているのを我々は目の当たりにしたのですから、日本の教育界の未来に対し、暗澹たる気持ちになるしかありません。

面従腹背がモットーだそうですが、我々の受けた数々の仕打ちからすると、まさにそのとおり人間だと断言できます。

自己保身や、他人を引きずりおろすことばかりせず、今一度、この大川小学校の問題を省みて、いささかなりとも次世代の子供の命のために、教育行政を正すことに携わって欲しい。

どうです。当事者が冷静に冷静に書いたものです。

怪文書が出てきたとか、あんなもん、あとからいくらでも作ることができる。日付なんか、適当に書いたらええねん。

加戸元愛媛県知事が、前川の言うことは、思い込みと推測の塊で、真実の前に「官邸憎し」という感情がある。 どうみても、元官僚には勝ち目がなく、単なる意趣返しにすぎない、と喝破したのも慧眼である。なにせ、10年以上かけて加計学園と艱難辛苦、拒絶されながらついに認可を得るところまできた。・・・この10年以上、という点が、安倍総理が加計問題に無関係であることの証明のひとつになっている。

今治と岡山の加計学園との接点は、安倍総理ではなく、本来愛媛大学などが関与するべきところ、大学が獣医師会の執拗な嫌がらせに対し、嫌気がさしたかららしい。で、岡山の加計学園（岡山理科大を経営している）の事務局長とある愛媛県議がたまたま同級生だった線から岡山・愛媛のつながりができたという。・・・このとき、当然ながら、安倍さんは、総理になれるも何も判明していないときである。

さて、本題の加戸守行愛媛県知事の話に戻る。

もともと、今治市を学園都市にするという発想があった。加戸知事は、10年以上も前から獣医学部を建設したかった。今治は、国家構造改革特区ということで、第一次安倍政権のときに、獣医学部を設立する話を文科省に持ち込んだ。それ以降、安倍さんと50～60回はお会いしているが、加計のかの字もでたことがない。だから、加計孝太郎氏が安倍総理と懇意であることを知らなかった。都合15回の懇話があったが、最初の5回は安倍さんが推進本部の本部長をしていた時で、あまり積極的な関心を持っていなかったらしい。この時点では、加計氏が獣医学部の建設にほとんど最初からかかわっていた。つまり第二次安倍政権の時に5回はねつけられている。獣医学会では、北村という元自民党議員で、新政党や新進党に、いわば権力になびき、最後に自民党に入党した男がいて、せっかく民主党が珍しく積極的に動いたのに。ところが民主党でも玉木某は、父親が香川県の獣医師会の副会長をしているからか、邪魔をする。ついには石破茂議員に話を持って行っている。「次の総理は石破さん」と読んだらしい。「ものくれる人はいいい人」だから動いてくれそう、と考えたらしい。そのうち特区に指定されたので、京都も手を挙げたが、準備の期間も内容もかなり劣ららしい。十分な中身がない、と表現されている。新潟は早くに諦めた。

獣医師会は、2校もできてはかなわないとばかりに、結局1校にしてくれ、になった。獣医師会の獣医師政治連盟というのがあって、北村直人氏が委員長であり、この人物が暗躍しているいろんな政治家に依頼していたことがわかっている。加計さんに「あんた政治家は誰を知っているの？」 安倍総理です。・・・それから、安倍さんと加計さんが一緒にゴルフをしている写真などをばらまいて、いかにも安倍さんが強権発動をしたかのように工作したのである。・・・それを最大限利用しようとしたのが、捏造の朝日とNHK、のちになって文藝春秋である。

一般的に言って、もし安倍さんに対して加計氏の要請があったとすれば、「今の話は聞かなかったことにする」と言うだろう。オレならそうする。・・・安倍さんは、公私混同するような次元の低い政治家ではない。加計氏もそんなことを頼むような人格ではない。それを、朝日新聞やTBS,文芸春秋を初めとするマスメディアが勝手な憶測で（というより「安倍叩き」に利用しようとしての捏造ですが、彼らお得意の。）「加計ありき」にしてしまったという、今の流行でいえば「フェイク・ニュース」である。民主党の連中にしてみれば、自分たちができなかったマニフェストの遵守をいとも簡単にクリアしてしまう安倍政権をつぶせるものならつぶしたい。なにせ、4年かかっても、いつも安倍さんに論破されて、自分らの意見（間違っているのだが、それが理解できるほどのチエがない。）が通らない。自分たちの無能さを如実に現す安倍政権をつぶしたい。国民は騙されているのを知らない。だから、細かい日時まで、根掘り葉掘り質問するのだが、安倍さんにしてみれば、そんな些細なことまで覚えているわけがない。国会は、時間の無駄で給料をもらう場になってしまった。この北朝鮮の暴発がいつ起こるかもしれない時期に、捏造記事をもとにしょうもない話題で論戦を仕掛けている。野田元総理の英断からみれば、バカの集団にしか見えない。

加戸知事は、森政権のときに高校生たちが乗船していたえひめ丸の潜水艦による沈没事件の時、安倍さんは危機管理担当の官房副長官で、この時以来よく知っている間柄である。この時も森さんが半袖でゴルフをしている写真を使う。事件が発生したのは、真冬である。

茶の間の主婦は、テレビからの報道のみを信じるから、安倍さんの人気を落とすことになり、加戸さんの意見をまともに報道すれば、安倍さんが加計氏に依頼されて云々などという話は出てこなかった。・・・こういうのに等しく選挙権を与える必要があるのか。・・・かつて市川房江さんが「女性にも参政権を・・・」と言い続け、それなのに政治は少しもよくなならない、と嘆いた。ボクには女性蔑視の気持ちはなく、ほとんどの男にもいらない。

それはともかく、教育再生実行会議で安倍さんの前で「なんとかならないか」と言った。ところが、安倍さんには興味がなかったらしく、反応はなかった。然るに、前川は、「安倍総理が加戸知事をこの会議に入れるようにした」と言う。加戸氏は、安倍総理に「教育再生を安倍内閣の重要事項としてやりたい。加戸さん、力を貸してくれ」といわれたからです。この時点では、安倍さんと加計氏が友人であることは知らなかったし、安倍さんに対しても加計氏の話は全くしていない。これは、えひめ丸事件のときの縁からである。

とにかく、獣医師会のなりふり構わぬやり方については、加戸さんならずとも納得できないであろう。このあと、WILL10月号には、その後の獣医師会側の政界への工作が参考資料として5ページにわたってまとめられている。

安倍憎しがマスメディアの本音であり、朝日新聞、TBS、ワイドショーなどなど、「不偏不党」を標榜する報道機関としては、すべて失格である。ワイドショーは、それこそ低能の集まりに過ぎないからテレビ局の意に反するようなことは言わない。言えば、出番がなくな

るだけだ。

後日談がある。朝日新聞が、安倍総理に「慰安婦問題について？」と質問をしたら、「あれは朝日新聞が吉田清治の嘘を宣伝したから、」というのは、総理になった直後だが、のちに別の記者が「加計問題についてはどうでしょうか」と質問したら、「あなたの新聞は、加戸前知事の記事を書きましたか」朝日はしどろもどろになって、書いたと思いますが。・・・記者懇談会だから他社の記者も大勢いる。失笑の嵐だったらしい。朝日は、加戸知事の発言を、自分たちの都合が悪くなるから隠していたのである。

その後、文科省、農水省、総理府など、総理の意向だ、と強引に動いたとされる側近議員らも参加しているワーキング・グループで、安倍総理の意向だとわかっていて文科省や農林省関係の事務の連中のサボタージュが表沙汰になり、各副大臣など、まったく「総理の意向」については知らなかったことが明らかになる。もうおわかりだろうが、安倍総理と加計学園の獣医学部設立については、まったく無関係である。民進党には、人間性を疑わしめるような連中が大勢いることも白日の下に曝されてしまった。だから、ある意味では、安倍総理は北朝鮮のちょっかいに対して最大限の配慮をしながら、いわば片手間のように無意味なモリカケ問題の答弁をしていたことになる。別の稿に書く予定だが、「戦後最大級の報道犯罪」ヨーロッパでの外交で、EU 諸国が絶賛した功績があったのだが、むしろ日本のマスメディアはどこも触れることさえしなかった。歴史的な快挙だったのだが。さらには、政府による行政への不当介入などと前川などが言うが、面従腹背を信条とする前川は、何もしていない。・・・政治によって行政がゆがめられた、のではなく、不正の根を正した、という歴史的に見ても素晴らしい成果である。

NHK や朝日新聞など、ジャーナリズムを標榜する連中は、真実を報道しない、ということがわかっただけでも、この不毛な国会の唯一の収穫であった。

2017.11.11.